

おだわら

発行 小田原市役所 編集 広報課 〒250 小田原市荻窪300番地 ☎33-1261



昭和63年

11月15日

(10月1日現在)

(前月比+30人)

人口・世帯

人口 190,210人

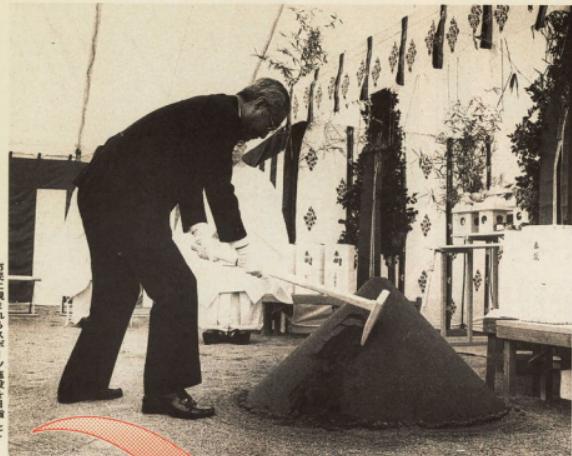
世帯 59,251世帯

市民の保健・休養施設として開設された
活動と公民の憩いの場として開設された
小田原公園敷地において、野球場
建設の安井織物が、今月一日関係者
を集めて開設式を行いました。

野球場は公園の中核施設として建設
費十七億五千円をかけ、昭和六十五
年の市制施行五十周年記念事業として

施設は面積九十五メートル×セ
ンターハイドームで、夜間照明付き
の本格的な野球場です。収容人員も、
メインスタンド三十一人、芝生スタン
ド七十五人となります。

広く市民に親しまれるスポーツ施設
として完成へ向けて整備が進められています。



市民スポーツの拠点に

野球場建設予定地で安全祈願式が

の完成を目指します。

施設は面積九十五メートル×セ
ンターハイドームで、夜間照明付き
の本格的な野球場です。収容人員も、
メインスタンド三十一人、芝生スタン
ド七十五人となります。

広く市民に親しまれるスポーツ施設
として完成へ向けて整備が進められています。

体験学習で稲刈りを



慣れない作業も元気よく

十月十九日に柏山酒の川付近の九
アールの水田で、岩井小学校四年生約
百二十人が稲刈りを行いました。
これは、今年八月に水稻育苗体験学
習で自分たちが田植えをしてその仕上
げとして、見事に実った稻を手で手^て
作で刈り取りました。

掛かり手つきでかまぼこを使ったり、
慣れない手つきで手汗を使ったり、
掛け子の農家の苦労もよびり体験
しながら、収穫の喜びを味わっていました。
そして、最後に稻の脱穀作業やもみ
すの作業を見出し農業についての理解
を深めました。

草花の寄せ植えを
指導します

- ◆ 記念事業として、草花の
寄せ植え指導をする会を開
催します。費用二部負担
- ◆ 中込み遊び及び問い合わせ
会議
- ◆ 11月24日(火)と12月1日(土)
午後1時~正午
- ◆ 場所: 大野の市緑化センタ
ー
- ◆ 費用: 入園料で、中込み遊びに
ついては50円で、市緑化センタ
ーに問い合わせる場合は100円
- ◆ 時間: 17:30

3大イベント

シンボルマークと
キャラクターを募集

昭和63年秋から66年度に

開催多岐で、いよいよ三大

構成です。

開催年記念

小田原合戦400年

市祭典交流フェスティバル

市祭典400年地文化

決まりました。

これまでに、シンボル

マークとキャラクターを

優秀賞 各点20万円

集めますので、みなさん

入選者の版画は小田原

市に寄贈いたします。

また、優秀作品はおほし

しません。

審査員会による

評議会にて決定します。

● 審査会議

内容: イベントの名

題及びキャラクター

● 審査会議

内容: 賞品を決定します。

● 開会式の発表 昭和64年

3月 17日(土)

開会式

内容: 文化祭開催

キックオフ

開会式

小田原スケッチ今むかし (8)

絵と文・小暮 次郎



小田原市は、近畿地方の一大都市として、古くから農業が発達した。また、小田原城や駿河守護の時代には、軍事要塞として重要な役割を果たした。しかし、明治維新後は、鐵道の開通とともに工業化が進み、現在では、農業と並んで観光や工業が大きな産業となっている。

おまけ

自転車競走に沸く観衆



この日の午後、小田原市は多くの自転車競走が開催され、街中で大いに盛り上がりを見せた。多くの観客たちが、競争の激しさや選手たちの技術に魅了され、熱狂的な応援をしており、賑やかな雰囲気があつた。

この日は、午後より晴天となり、観客たちも熱心に競技を見守った。しかし、途中で豪快なサイクリング音楽が流れ、観客たちが一齊に手拍子を始めた。この音楽は、その日の天候や競技の進行状況によって、毎回違う曲調で演奏される。

また、観客たちは、競技場周辺で花火や煙火を打ち上げて、競技の盛況を祝うなど、様々な形で盛り上げた。このように、小田原市では、自転車競走が開催される毎に、観客たちが熱狂的に応援する文化が根付いてしまった。

おまけ

北方領土 明日の復帰へ今日の声

各地で区画整理事業が

みなさんのご協力を得て

各地で区画整理事業が



正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖
正山鉱業本家の内緒圖

高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話
高橋をめぐる話

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出
土の出

五井市長は、この地に、土の出として、土の出をめぐる話を書いた。土の出は、この地の名前であり、この地の歴史や文化を語る上での重要な要素である。

この地の歴史は、古くから、土の出として、土の出をめぐる話を語る上での重要な要素である。

